

# 付着生物ラーバ情報

## 1 ラーバの出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

### (1) ユウレイボヤ

ラーバは奥内沖、久栗坂沖でともに1.7個体/m<sup>3</sup>、小湊沖で1.3個体/m<sup>3</sup>見られました(図2)。

### (2) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)、キヌマトイガイ

クラゲ、ラーバは見られていません。

### (3) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は小湊沖で1.3個/m<sup>3</sup>見られました。

### (4) マボヤ

ラーバは奥内沖で20.0個体/m<sup>3</sup>、久栗坂沖で2.8個体/m<sup>3</sup>、卵は奥内沖で40.8個/m<sup>3</sup>、小湊沖で3.8個/m<sup>3</sup>見られました。

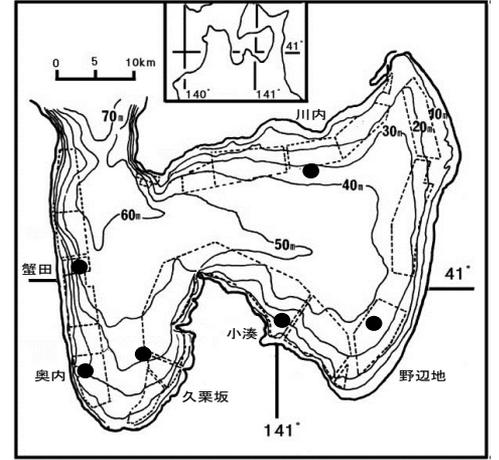


図1 ラーバ調査地点

## 2 今後の見込み

ユウレイボヤは、水温が20℃以下に低下すると産卵し、例年10~12月がラーバの出現ピークになっています。現在、陸奥湾の中層水温が6~13℃台まで低下したにもかかわらず、ラーバがわずかしか見られないことから、分散済みの籠への今秋における付着は少ないと考えられます。

アミクサ小枝の本格的な出現は12月以降、オベリア類とキヌマトイガイの付着は年明けになるものと思われます。

マボヤのラーバと卵が見られていますが、マボヤのラーバは、9℃以下になると活性が低下し、泳げなくなることが分かっており、水温も低下してきたので、付着は終盤を向かえたと思われます。

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サハラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキイガイ	アミクサ	
				ラーバ	卵			小枝	小枝
奥内沖	H30.12.13	1.7	0.0	20.0	40.8	0.0	0.8	0.0	0.0
久栗坂沖	H30.12.21	1.7	1.1	2.8	0.0	0.0	10.6	0.0	0.0
小湊沖	H30.12.11	1.3	1.3	0.0	3.8	0.0	3.8	1.3	0.0
川内沖	H30.12.21	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	17.2	0.0	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

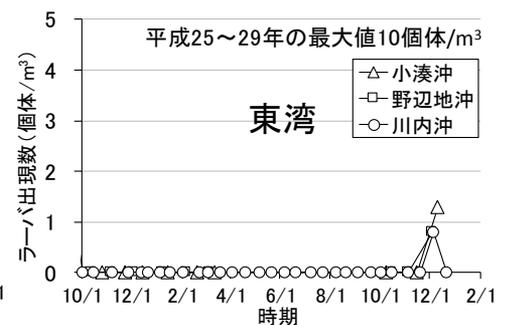
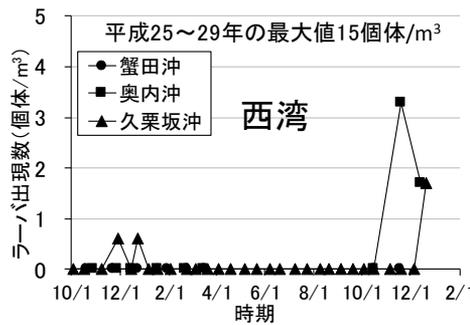


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成29年10月~平成30年12月)

## 3 ユウレイボヤとオベリア類の付着予測

10月~翌年3月までのユウレイボヤ累積ラーバ数(久栗坂)、オベリア類累積クラゲ数(蟹田、奥内、久栗坂)、12月~翌年3月までの青森ブイ水深15m層の平均水温と出荷時期のパールネット1連の付着量の関係を調べたところ、平均水温が8℃以上であればラーバ(クラゲ)累積出現数が多くても付着量が少ないことが分かりました(図3)。ちなみに青森ブイの平均水温の平年値は8.1℃です。

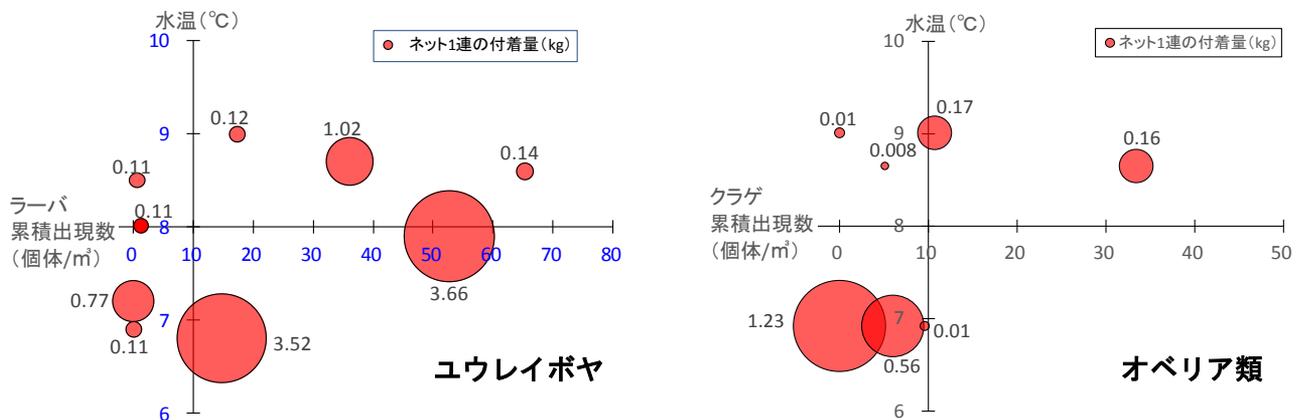


図3 西湾におけるユウレイボヤのラーバ(左図)とオベリア類のクラゲ(右図)の累積出現数、青森ブイ水深15mの平均水温とパールネット1連の付着量の関係(O印の中心はプロット位置、面積は付着量)

